

財団からのお知らせ

図書紹介

カイメン すてきなスカスカ

椿 玲未 著
岩波書店 岩波科学ライ
ブラリー-306
定 価 本体1,600円+税
発行日 2021/8



「カイメンって動物な
のですか?」と、よく磯
の観察会などで質問され
る。岩の裏に付着する橙
色、黄色や灰色の穴が空
いた不思議なでこぼこの
物体が、このカイメンで
ある。カイメンについて
調べようと思っても、図
鑑の一部に数種類が記載
されているだけで、読み物
として書かれた一般向け
の書籍がなかった。今回
出版された本書について
簡単に新刊紹介したい。

本書は5章からなり、人との関りから、形態、行動、共生、生態など幅広く紹介されている。各章には「COFFEE BREAK」という、ちょっとしたトピックのようなコーナーがあり、分類の問題や長寿のカイメン、他の生き物との関わりなどが著者の考えも含めて書かれていて、ジミにすごい存在であることを教えてくれる。

身近にみられるカイメンといえば、切手を貼る時に使う事務用スポンジが昔はこのカイメンだったとご存知でしょうか? 最近はほとんど人工のスポンジになってしまいましたが、化粧品に天然ものを見かけることがあります。実は薬にも利用されているそうで、意外とカイメンは私たちの生活に近い生物なのだ。カイメンは生活に利用されているため、養殖もされているそうである。

カイメンの体にはたくさんの穴が開いていて、体の中にも水路があり、本の題名にあるようにスポンジのようにスカスカなのである。しかし、その水路は非常に重要で、水を循環させて酸素や小さな有機物を取り込む役割がある。そう聞くと動物らしさを感じるが、彼らには神経系がなく、すりつぶしても死なないそうだ。詳しい説明はぜひ本書をご覧ください。

カイメンの系統関係については、複数の説があるそうで、近年のDNA研究による仮説なども紹介されている。また、カイメンの行動や生活についても具体的に書かれていて、付着生活ならではの戦略にとっても興味を惹かれる。

生物の生きている姿が想像できるような素敵なイラスト(やまねよしこ氏による)にも触れたい。表紙のカラフルなイラストが思わず手に取りたくなる。また、本文でもカラーの説明図がたくさん使われていて、理解しやすく、海の世界がなんだかポップに見えるのも、このイラストならではの楽しみだろうか。

そして、ウミウシ好きにもぜひカイメンを知っていただきたいと思う。ウミウシはカイメンを餌とするものも多い。本書では共生や利用する生物たちとの関りが紹介されていて、ウミウシはじめ、多くの生物のすみかや餌になっていたり、逆に別の生物を利用していたりすることを知って、彼らは生態系の重要な一部を担っていることを理解することができる。

多くの生物に共通することだが、まだ解明されていない謎がカイメンにもあるということである。本書は、そんな謎に迫りつつ、経験談なども交えながら面白く伝えてくれる。入門書として、ぜひ読んでいただきたい一冊である。また、日本におけるカイメンの研究者は少ないのが現状であり、当財団のこれまでの研究助成でもカイメンをテーマにしたものは数えるほどである。こうした本が出版されることで、カイメンに興味を持つ人が増えることもまた期待したい。

(片山 英里)

お詫びと訂正

うみうし通信 No.111 (2021年6月末発行)の「ちょっとやってみての発見～オニヒトデの共生細菌とアオサンゴの種分化について～」(安田仁奈氏)の一部に誤りがありました。関係者の方々には大変なご迷惑をおかけし、また誤って掲載いたしましたことを、謹んでお詫び申し上げますとともに、下記のように訂正いたします。

訂正箇所：7ページ図4 (左図) 大浦湾のアオサンゴ群落の撮影者

- 【正】ダイビングチームすなっくスナフキン撮影
【誤】安部真理子博士撮影